

中期経営計画説明会の概要

1. 実施概要

- (1)日 時 2019年5月24日(金) 16:00~17:00
- (2)場 所 株式会社日立物流 本社2F 大会議室 (東京都中央区京橋二丁目9番2号)
- (3)出席者 <当社>
執行役社長 中谷 康夫、執行役副社長 神宮司 孝
執行役専務 佐藤 清輝、執行役専務 林 伸和、執行役常務 藤谷 寛幹
<報道関係者・機関投資家・アナリスト他> 77名
- (4)内 容 ① 中計概要説明
② 質疑応答

2. 主な質疑応答(要旨)

Q1. 数値目標の売上収益7,200億円というのは低い印象ですが、日新運輸影響やポートフォリオの見直しが要因でしょうか。

A1. 増減の内訳は、日新運輸の連結外影響が▲170億円、ポートフォリオ戦略の実行で▲100億円、為替影響で▲100億円、環境変化・物量増減▲218億円が減収要因ですが、新規受注で+500億円、協創効果で+200億円を計画しています。

Q2. 戦略投資を積み増す中でも、利益率5%を確保できるのでしょうか。

A2. 新規受注・協創効果・ポートフォリオ戦略に加えて、VC21活動など生産性向上の取り組みで成果が出てくる見込みです。生産性向上はこれまでは国内の陸運事業を中心に進めてきましたが、最近はコーポレートやバンテックも含めて裾野を広げて改善活動を始めています。これらを織り込み、利益率5%の確保は可能であると考えています。

Q3. SGホールディングス(以下、SGH)とのシナジーターゲットについて教えてください。

A3. 2019年度の数値は既に2018年度決算説明資料で開示をしております。
中計での協創効果は、AITとの協創効果も含め売上収益+200億円、営業利益+20億円を仮置きしていますが、もう少し増えてくる可能性はあります。

Q4. SGHとの関係は今後どのように変わっていくのでしょうか。

A4. 当社としては統合に向けて、前向きに捉えています。その前提として1点目は協創効果の創出です。2019年度中には前中計で目標にしていた数値を達成できると考えています。2点目は次のゴールとして、中計3ヵ年での協創効果の数値を固めていきたいと思っております。3点目は将来の方向性をお互いにきちんと擦り合わせができるかです。ECプラットフォームセンターでの取り組みなどを含めるとSGHとの協創は非常に有効であると実感していますし、今後も大きな可能性を秘めていると思っております。

Q5. ECプラットフォームセンターの稼働に向けた具体的な計画を教えてください。

A5. センターの稼働は9月を予定しています。大幅な省人化を図る予定で、現在は設備の設置などを行っており、6月中旬から設備の稼働チェックなどを行ってまいります。

Q6. 説明資料P19でエコシステムの形成として3兆円規模と説明がありましたが、内訳を教えてください。

A6. 当社とSGHで約1.8兆円、AIT・日新運輸や様々な協創パートナーを加えると2兆円超えとなり、中計3ヵ年で協創パートナーが増えていくと3兆円くらいのエコシステムになるイメージです。

Q7. 営業利益の数値目標の増減内訳を教えてください。

A7. 新規受注で+60 億円、協創効果で+20 億円、生産性向上で+65 億円、環境変化・物量増減で▲65 億円、為替影響で▲5 億円、日新運輸の連結外影響で▲5 億円、ポートフォリオ戦略の実行で▲12 億円、戦略投資で▲10 億円です。新規受注や協創成果をベースに、生産性を向上させていくことにより目標数値までもっていく計画です。

Q8. 日立キャピタルとの協業で何ができるようになり、御社のオペレーションがどう改善されるのでしょうか。

A8. 調達を一括して請け負うスキームで、調達のコストを負担してお客様のキャッシュフローに貢献するというものです。調達スキームは一部鉄道輸送などで既に取り組んでいますが、このスキームを活用して EC 事業を立上げるお客様への展開を検討しています。また、SSCV の事業化に日立キャピタルのリースと組み合わせた展開を考えています。

Q9. 新中計ではポートフォリオ戦略として営業利益減少を見込んでいますが、実行する意義について教えてください。

A9. 日新運輸を例にすれば、フォワーディング事業はSCMを担う上では欠かすことのできない事業であると考えています。AITグループになることで連結上の営業利益は減りますが、持分法投資利益として当社利益に寄与します。また、営業力の強いAITのフォワーディングサービスを当社が元請けとなり、3PL顧客に提供することもできます。さらに、日立物流バンテックフォワーディングとAITグループとの協業においては、利益率の高いAITグループに引上げられるかたちで収益率の改善も期待できます。このように、新中計では、社外の強力なパートナーとともに成長して、当社の3PLに貢献できるモデルが増えることで、全体利益の向上に繋がっていきます。

Q10. 新中計における戦略投資について、既に公表済の2019年度の戦略投資30億円のほか、2020年度、2021年度も次の中計に向けて戦略投資が続くということでしょうか。

A10. 2019年度の戦略投資は30億円(前年比10億円)、2020年度、2021年度も30億円程度を想定しています。

Q11. 前中計は途中で下方修正しましたが、新中計の下振れリスクはありますか。

A11. 新中計値(営業利益360億円)は、現実的な計画値であり、十分達成可能な数字であると認識しています。

3. 会場風景



以上